

ほうこん

題字・清水英夫

6月21日(土)午後3時より 今年度総会を開催!

5月理事会報告

5月20日理事会を開催した。
◇総会について

NPO法人になって、第4期、第5期を迎え、今回は役員改選となる。新理事長以下理事、委員長などの役員候補者が今月の理事会で決定した。総会で新体制を発表し、承認を受けて発足の段取りとなる(別途、総会の案内状をお送りしましたのでご出席をお願いします。ご欠席の時は、返信ハガキの委任状を必ずお送りください)。

◇「GALAC」について

9月号(8月6日発行)は「北海道」を特集。自主編成など北海道ならではの放送事情、特性を探る。なお、編集スタッフは、今号で任期を終わりに交代する。

◇選奨事業委員会

第45回ギャラクシー賞大賞、優秀賞について、各部門委員長より受賞理由の説明があった。CMの

大賞について、マイナーすぎる選考ではないか、と異論があった。

◇マイベストTV賞

5月23日ラジオテレビ記者会で、滝野理事よりグランプリを発表。受賞作品TBS「歌姫」は、同日ホームページに発表し、Web会員に伝えた。「歌姫」は、総投票数の半数を獲得した。

◇ギャラクシー賞式典について

来場者に45周年を迎えたお礼として、「GALAC」7月号を贈呈する。この号には、受賞作の詳細が掲載されている。

◇NHK「ザ・ベストテレビ」の件

今年度ギャラクシー大賞を、NHK・BS2で6月14日午後7時45分より放送する。大賞贈賞式の翌日、6月4日に収録することでNHKと調整がついた。

◇正会員の退会を承認

谷朝美さん

新入会員自己紹介

地方から、一歩ずつでも前進!

川口昇児

3月に入会を認めていただきありがとうございます。私は25年前のテレビユー福島の開局と同時に29歳で入社しました。以来、報道部を振り出しに、編集部と制作部そして再び報道部を経験して、去年7月から現在の編成業務局に籍を置いています。また、番組審議会の事務局も兼務しています。

「GALAC」5月号の特集「番組審議会は機能不全!」は、私自身とても刺激になりました。曲がっていた背骨がボキッボキッと音をたてながら背筋を伸ばされた思いがしました。番組の委員全員にも配布したところ、「とても勉強になりました。」というお話しをいただき、委員の方々の意識にも変化があったようです。

会員とはいつでも地方在住のため、お役に立てることは限られますが、ここ福島で地域に必要とされる放送局を目指して、一歩ずつでも前に進んでいきたいと考えています。

NHK「風林火山」の若泉久朗氏を囲む 「小さな集い」(第二回)を終えて

石井清司

優れたプロデューサーの仕事ぶりは、演出その他とはまた別の意味で凄い。各パートの楽譜の中味を奥まで知り尽くした名指揮者とおなじだ。若泉久朗氏もそれら第一人者群のひとつで、この「集い」で洗いざらい話してくれ、それも参会者への敬意の表れだった。満身でドラマづくり人生を突っ走る人物としての魅力に加え、テレビドラマ制作のトップ走者の真髄を目の前で見せてくれ、参会者を至福のひとつに誘った。

話は大河「風林火山」立ち上げの挿話から始まり、その終結までへと走る。次いで日航機墜落の大惨事の現場へ踏み入り、遺族の証言を得た「クライマーズ・ハイ」の今思えば苦悩の制作日誌を。最後に今木曜八時放映の「パツテリー」の取り組みと、低年齢層戦略の真相を。皆との懇談のなかで進んだ。大作「風林火山」を作り切った情熱がまだ熱い。そしてNHK編成戦略の最新線、少年劇「パツテリー」への局内エース登板。CMの名手箭内道彦のダイナミズムとはまたひと味違うNHKドラマの寵児若泉久朗氏――。

一九六一年生まれ。父の影響下、黒澤明など全盛期の日本映画を観て育つ

◇今回の理事会

6月21日(土)午後1時より
於・新宿厚生年金会館

「出席」志賀信夫、音好宏、田代勝彦、小田桐誠、上滝徹也、入江たのし、岩本太郎、隈部紀生、坂本衛、嶋田親一、滝野俊一、永田俊和、橋本隆、藤田真文、藤久ミネ

新入会員

◇中島好登(なかじま・こと)

会議記録

「5月」……………
19日 出版編集委員会
20日 理事会
22日 選奨・ラジオ定例部会
27日 選奨・テレビ月評会

■おしらせ■

「ザ・ベストテレビ」
NHK・BS2放送決定!
第1部
6月14日(土) 19:45~23:15
第1部・再放送
6月21日(土) 13:30~17:00
第2部
6月22日(日) 13:00~18:00
第45回ギャラクシー賞が紹介されます! ぜひご覧ください。

た。東大法学部時代、映研で8ミリ自主映画製作。八四年にNHKへ入局し沖縄で四年。これがジャーナリストの原点になった。戦後四十年心を開いてくれた沖縄の人の証言シリーズを作り上げた。

二〇〇四年から「てるてる家族」「クライマーズ・ハイ」へ。「命は宝だ」と、あの沖縄戦のことがいつも頭にあった。「クライマーズ・ハイ」を制作する際、歴史的大惨事なので、ドラマだが、地名、飛行便名など実際の名称を使うことを決断した。「メディアとは何か」「新聞とは何か」を自らに問うた。これは不祥事で揺れつづけたNHK再生の流れにもつながったはず、と。「使命感の共有は現場を強くする」と若泉氏は知った。

歴代大河の一覧をもとにその流れも見てみた。参会出席者の近藤晋氏が、自分のNHK大河制作者時代に触れ、フジなど日航機墜落事故のテレビスクープ秘話も交え、話は踏み込まれ弾んだ。

五月二十四日(土)、午後六時「東京ウィメンズプラザ」

出席 田代、嶋田、小田桐(放懇)、「放送人の会」会員ほか。